

まなびや訪問

金融教育研究校・
金銭教育研究校
の紹介



「お小遣いゲーム(5年生)」の様様



講演会後の講師との記念撮影



内子町御祓地区の棚田風景



太陽の子のデザインと校舎



愛媛県 内子町立天神小学校

愛媛県内子町立天神小学校は、明治8年に開校した歴史ある学校です。学校のある天神小学校区は、手漉き和紙を使った大凧合戦で有名な五十崎地区、日本の棚田百選に選ばれた御祓地区など、伝統と豊かな自然に囲まれています。

本校は2018年度から2年間、愛媛県金融広報委員会から

金銭教育研究校の委嘱を受けています。「ものやお金、人や自然(資源)を大切にし、進んで働く心豊かな児童を育てる」をテーマに研究を進め、2018年度は『金融教育プログラム(全面改定版)』を参考にして低・中・高学年と発達段階に即した目標を立て実践しました。

1年生では壊れたり持ち主が分からなくなったりした文房具などをお金(模型)に換えることで、物やお金の価値を知り、持ち物を大切にしている姿勢を身に付けました。4年生では身近な「ゴミ問題」をテーマに、ゴミを減らしたり、使った物を再利用したりする具体的な方

法を考え発表し合うことで、資源を大切にすることへの意欲を高めました。5・6年生では「お小遣いゲーム」をすることや、お小遣いの必要性について討論することを通して、商品選択にはさまざまな視点があること、計画的にお金を使うことの大切さに気づくことができました。

参観日には全学年で金融教育授業を公開するとともに、テレビ番組でもおなじみの弁護士を招き、「子どものお小遣いにまつわる法律」と題した講演会を行いました。児童の学びはもちろんのこと、保護者や地域の方々の理解を得るよい機会にもなったのではないかと思います。

児童が将来充実した社会生活を送ることができるように、金銭の流れや生産・消費などの仕組みを理解することはとても大切なことです。そのうえで、物やお金を大切に使う、勤労の意義を理解しながら働く、そんな児童の育成をめざして、今後も研究を進めたいと思います。